

# 子どもたちのための学校給食 地域に根ざした給食を実現しよう

自校献立、自校炊飯、地域の食材使用  
家庭・地域の「食」の改善  
地域のお年よりのくらしや生きがいを支援



1999年10月

月山市の豊かな学校給食をめざす市民運動実行委員会

# も く じ

一、はじめに	1
二、これからの岡山市の学校給食を考えるために	
(1) 岡山市の学校給食に関わっていること	2
(2) 充実している制度と課題	3～5
(3) 子どもの現状と背景 ～ 子どもの心とからだのおかしさは子どもの叫び ～	6～8
(4) ますます大切な教育としての学校給食	9・10
三、学校給食現場で働く栄養士・調理員からの提言 ～ 私たちは岡山市の学校給食をこうします！！～	
(1) 豊かな学校給食の実現のために	11・12
(2) 家庭・地域での食文化の乱れの中で、食の専門家として果たす役割	13
(3) 地域のお年寄りの暮らしや生きがいを奨励する役割	14
四、岡山市の豊かな学校給食をめざす市民運動実行委員会への加入のよびかけ	15

## 一、はじめに

### 学校給食の充実こそ、子どもたちの最善の利益のために私たちの責務

成長発達の上にある子どもたちにとって、「食」は、養護維持だけでなく、成長・発達を支える第一の要素であることに異論を唱える人はいないでしょう。ところが、現実の子どもたちの「食」は、それにふさわしいものになっているでしょうか。小児生活習慣病や肥満児の増加、「切れる子ども」の問題など、偏った食事や一人でのさびしい食事が、子どもたちの体や心に影響していることも共通理解になりつつあります。

「食」は、私たち大人にとって、またそれ以上に子どもたちにとって、大変大きな意味を持っているに違いないのです。

私たちが今充実をめざしている学校給食は、まさに望ましい「食」を子どもたちに提供するとともに、「食」についての学びの場ともなるものです。そのあり方によって、子どもたちの成長・発達や健康はもちろん、地域や家庭での「食」にも大きな影響力を発揮しようと思えます。

現在、岡山市では「学校給食運営審議会」が作られ、学校給食を見直すための検討が進められています。全国各地で学校給食の民間委託が進められているもとの、多くの市民から不安の声があがり、その検討結果がどうなるのかが注目されています。

私たちは、岡山市の学校給食が子どもたちにとってもっとすばらしいものになることを願い、多くの方と一緒に学校給食のこれからの姿を考えていくために、このパンフレットを作りました。

この中には、学校給食の現状や問題点、今後期待される役割や豊かな可能性もまとめられています。そして、学校給食の現場で働いている人からの、今の学校給食をこう改善していきたいという提案や決意も載せられています。

学校給食に関心を寄せている方はもちろん、今まで「食」への関心が薄かった方にも是非お読みいただき、学校給食のあり方をともに考え、そしてその実現のために力を合わせたいと願っています。

子どもたちは日々成長していきます。その意味では「食」は持ったなしです。今はお前末でも将来いいものを食べればいい、というわけにはいきません。まさに、子どもの権利条約が謳っている「子どもの最善の利益」を、私たちが実現していくのかどうか問われているのです。

このパンフレットが、岡山市の学校給食の新たなスタートにつながり、同時に教育や行政のあり方とともに、私たちの「食」を見直していく契機になれば幸いです。

1999年10月 岡山市の豊かな学校給食をめざす市民運動実行委員会

## 二、これからの学校給食を考えるために

### (1) 岡山市の学校給食に問われていること

岡山市において学校給食や栄養士や調理員の仕事について市議会一部議員や市長から、

①年間180食、1日1回しか作らない

②春、夏、冬休みの勤務のあり方

③一食あたり710円で、その多くが人件費

が問題とされ、「見直し」が提起されています。

8月5日にスタートした学校給食運営審議会でも、これらの問題が焦点となっていますが、コスト値中心の議論だけでいいのでしょうか。

子どもたちの心やからだのおかしさは「学級離壊」「切れる子ども」などにあらわれ、食生活が深く関わっているともいわれています。また、日本の食文化も伝わりにくくなっているという「危機的な食環境」です。そのような中で、今の岡山市の学校給食の内容をどう改善し、文字どおり豊かな学校給食へと、どう充実させていくかということが今問われている中心課題ではないでしょうか。その中身は、栄養士・調理員の役割の問題も含めて、次ページ以降でみていきます。

学校給食の今後のあり方を審議している今こそ、一層充実していく絶好のチャンスです。すべての子どもたちに安全で豊かな、おいしい、教育としての学校給食を実現し、食を通じての地域・まちづくりに貢献していきましょう。

### 岡山市の学校給食をめぐる動き

1998年12月	<p>議会で、議員が「堺市は学校給食を民間委託にしたが、岡山市はそこまですらないのか」と追及。</p> <p>▶教育長は財政的な問題をあげ、全面的な検討のための組織づくりを約束</p>	
1999年12月	<p>議会では、学校給食の民間委託や人員削減を求める質問。</p> <p>▶教育委員会は学校給食の一食単価を710円と発表</p>	<p>710円の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人件費 364</li> <li>材料費 86</li> <li>その他 260</li> <li>社会保険 0</li> </ul>
6月	<p>学校給食運営審議会条例が成立</p> <p>議会では学校給食の見直しを求める質問が相次ぐ。</p>	

## (2) 充実している制度と課題



### 1) 全国にも誇れる岡山市の給食制度

①市が直接責任を持って、小・中学校（後述館を除く）で完全給食を実施。

（全国的には中学校の給食実施率は、7割程度）

②自校方式（学校に給食堂がある）が多く（約9割）、センター給食が少ない。

③自校方式の小・中学校と給食センターに栄養士を配置している。

④正規の調理員がほぼ文部省の基準で配置され、必要に応じてパート職員を配置。

⑤衛生的に配慮された給食施設や調理器具が整っている。

### 2) 全国に誇れる制度を生かし切れていない現状

◇岡山市は統一献立・一括購入です。

◇食器はステンレスを使用しています。

◇米飯給食は、週2回です。

\*詳しい内容は5ページの「現在の課題」で説明しています。

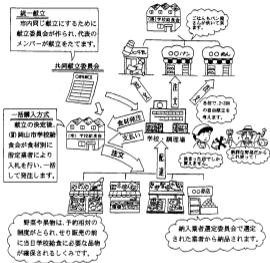
その中でも、一定の努力がなされています

◇日本古来の伝統食や郷土食を取り入れています。

◇季節のくだものを取り入れています。



## 現在の流通システム



### 3) 給食の現在の課題

献立は市内統一献立です。  
献立や食材の使用に制約があり、子どもや親が献立づくりに参加できず、各学校での工夫もできません。

副食材料は一部購入です。  
食材は学校給食会からの一括購入のため、地元でとれた旬の野菜や果物が使えず、輸入冷凍野菜を使うこともあります。



米飯は委託炊飯です。  
米飯は、各学校で炊飯しないでパン屋さんに委託しています。

統一献立のため、部活やお月見など季節の行事や、野外給食やハイキング給食などの学校行事に合わせた献立の変更ができません。

米飯給食は週2回です。  
県下では週3回以上が多いのに、岡山市は週2回のままです。最近では、和食や郷土食が見直されています。子ども達に食文化を伝える上でも米飯の回数を増やす必要があります。

給食時間が短く、  
残量が多くなりがち。  
特に中学校では長くても15分。  
短い時は半分など時間がなく、  
食べたくても食べることができないことがあります。

アレルギー児や  
肥満児の対応も  
できません。  
食物アレルギーがある子どもは、  
食べたくても食べることが  
できません。

食器はステンレスで、  
蓋筒や蓋もありません。  
安全ですが食事が暖かなく、  
熱い汁物は持てないのに、すぐ  
冷めるという弊害もあります。  
ご飯はパン皿、湯は半分にもぞ  
っておかず食器に入れるとい  
う現状です。箸は子どもが持っ  
てくるので、衛生面からも心配  
があります。

食事にふさわしい環境に  
なっていません。  
全校には、ランチルーム  
や食堂がありません。

### (3) 子どもの現状と背景

#### ～子どもの心とからだのおかしさは子どもの叫び～

「立てばバツタリ、転べばボツキリ、背中グンニヤリ、顔からアクビ」と子どものからだのおかしさが表現され、骨折、肥満、小児生活習慣病の増加や1/3の子がアレルギーを持つといわれるような状況があります。

心やからだのおかしさは、「学級離脱」「切れる子ども」などにもあらわれ、その背景にある生活習慣、特に食生活の問題が深く関わっているともいわれています。

子どもたちの叫びを私たちはどう受け止めればよいのでしょうか。

### 子どもの食環境は大変！！

いつでもどこでも食べ物が手に入る「超食の時代」といわれる現在、「食べることは健康で生きるための基本」「食が大切」という意識が薄くなっている傾向があります。

#### ①栄養バランスがくずれている

- ・加工食品、外食産業の増加、スナック菓子、ファーストフード、清涼飲料水の氾濫
- ・安易に子どもの好みだけに合わせた食事
- ・食事の洋風化で日本食が不足してきた



脂肪、塩分のとりすぎで病気になることがある



#### ②食生活のリズムが崩れ、欠食も増えている

- ・夜型の生活が増え、3食の時間がバラバラに
- ・朝食を食べていない子どもも増加、その内容も貧弱になっている

#### ③輸入食品や食品添加物の増加であふない食品が増えている

- ・O-157、残留農薬や添加物で安全性も心配に

#### ④さびしい「食事」が増えている

- ・子どもの習い事や塾通い
- ・核家族での共働き、長時間労働



子どもだけひとりぼっちの「孤食」、家族がバラバラの食事



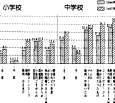
# 学校給食の場にあられた岡山市の子どもたちの「食」の問題

## ①極端な偏食

嫌いなものは一口も食べない、好きなものだと人一倍食べるという、極端な偏食のある子どもたちが増えています。

岡山市学校給食食糧調査結果(1994年～1997年)

出典：岡山県教育委員会



## ②分量が多い中学生

「中学校では小学校よりも分量の多さが目立つ。小学校ではよく飲んでいた牛乳も中学校ではよく残る。皮のついた果物などもめんどくさいと残りがち」といわれています。

## ③朝食が苦手な子どもたち

昔からのおふくろの味、魚や野菜の煮物、和え物、団子ものなどが苦手な子どもたちが多くなっています。

### 子どもたちの好きな献立

- 1位 カレーライス
- 2位 やきそば
- 3位 ラーメン

### 嫌いな献立

- 1位 野菜サラダ
- 2位 五目まめ
- 3位 酢の物

(1998.4月岡山市H小学校アンケート結果より)

## 中学生はなぜ残す？

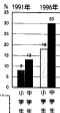
中学生の中には、「食」の大切さが充分理解されてないのか、残すことも早飯。食べている人に対しても「おまえ、そんなものよく食べるなあ」「そんなに食べるから太るんだよ」・・・など、ひとの嫌がることを言う子どももいます。正しい知識がなく、極端なダイエットをしている場合もあります。

### ④朝食をとらない子どもたち

「飽腹がない」「ほしくない」といった理由で朝食を食べない子どもたちが増えています。食べていても菓子パンやジュースだけという内容も多くみられます。

### 朝食を食べない子ども

（岡山県中学校栄養士会調査）



### ⑤おやつにも問題が

おやつの調査をすると、スナック菓子や清涼飲料水が多くなっていて、コマーシャルの影響が大きいと感じます。

#### よく食べるおやつ

- 1位 ポテトチップス
- 2位 アイスクリーム
- 3位 その他のスナック菓子

（1998.6月岡山市H小学校アンケート結果より）

### おやつと一緒に飲む飲み物

（1998.6月岡山市H小学校アンケート結果より）



- お茶
- 牛乳
- ジュース
- その他



## (4) まずまず大切な教育としての学校給食

### 栄養バランスのとれた豊かな学校給食

多様な食品を組み合わせ、栄養バランスがとれるよう工夫されています。

体の成長や  
健康を保障



不足しがちな栄養素  
(カルシウム・ビタミン)  
を補給



食品の味を知り  
味覚を発達させる



### 人間関係を豊かにする学校給食

先生や友達とのふれあいを深め、学校生活を豊かにします。

みんなと一緒に  
食べると楽しいな!



みんなと一緒に食べると、  
きれいなものも食べられるよ

給食時間って「ホッ」と  
する時間だね

### 地域や家庭の食改善にかかわる学校給食

旨ましい食生活や日本の食文化を伝えていきます。

◎自分や月見など四季折々の行事の食のいわれを給食日より子どもや家庭に伝える。

◎公民館などで季節にあわせ、旬の食材を使って親子料理教室を行う。

◎家庭の食卓について考えるきっかけをつくる試食会を開く。

◎子どもの食や健康について学校保健委員会で話し合う。



## 望ましい食習慣を形成する学校給食

「食べる」経験や指導を通して、望ましい食習慣を身につけます。



## 多様な教育効果のある学校給食

学校給食を通して、多様な教育効果をもたらします。



- ◎今日の材料がどこから来たのか、どこでつくられたのかを知る。（社会科）
  - ◎学校庭園を活用してさつまいも・トマト・じゃがいもなどをつくって給食に利用して、自然の恵みや働く人々への感謝の心を育てる。（理科・生活科）
  - ◎今日の給食の食品を六つの基礎食品群に分類させ、バランスがとれていることを知る。（家庭科）
- ◎成長するためには、バランスのとれた食事が必要であることを知る。（保健体育科）
- ◎給食当番活動をとおりて、協力や感謝の気持ちを育てる。
- ◎行事食を取り入れて郷土や地域を理解する。

学校給食現場で働く  
栄養士・調理員からの提言です。



## 私たちは 同山市の学校給食を こうします！！

私たちは、この提言実現のため制度改革や予算増額を求めています。同時に制度が変わらなくても、現在ただちにできることは、がんばって実行します。子どもの声が届く豊かな学校給食の実現と食の専門家としての役割を果たし、地域・まちづくりに貢献していきます。

### (1) 豊かな学校給食の実現のために

①調理員・栄養士は専門性を高め、より豊かな学校給食の実現のために努力します。

②統一献立を改めて、各校で献立を立てます。

各校に栄養士が配置されているという有利な条件を生かし、子どもや地域の実状にあった献立にします。

子どもや親や教職員の意見が反映した献立にします。バイキング給食やセレクト給食など多様な献立も作ります。

三厨休養などを利用し、栄養士と調理員で献立やレシピの試作検討をします。



③ごはんは各校で炊き、回数も増やします。

家庭の食事が洋風化傾向にあり、伝統食もあまり作られない状況の中で、米飯給食を通して、和食のよさと食文化を伝えます。



④各学校ごとに生産者の顔が見える地元の食材を購入します。

農業市である同山市の特色を生かし、地元でとれた安全な農産物を使います。

危険な輸入農産物や遺伝子組み換え食品は使いません。



- ⑤『食の大切さ』や『日本の食文化』への理解と関心を深めるために、児童・生徒向けに『給食だより』を発行したり、校内放送、給食指導をします。さらに食教育の充実を図ります。

家庭や子どもたちの食の乱れ、日本の食文化の危機のもとで豊かな食生活に向けて、食の専門家としての役割を果たします。



- ⑥国際化社会に対応し、様々な国の料理を取り入れ、その献立を国際理解のための教材として生かしていきます。



- ⑦食事にふさわしい食器に改善し、献立に合わせて使います。

正しいマナーを身につけるように指導します。

- ⑧子どもたちの食べる時間に合わせて、出来立てのものを提供します。

- ⑨ゆとりある給食時間を確保し、全ての学校に食事にふさわしいランチルームや食堂を設置します。

現在は小学校45分・中学校35分の給食時間の中では、食べる時間は小学校20～25分・中学校15分程度しかありません。

ゆとりある時間と食事にふさわしい環境で食べることの楽しさを子どもたちに実感させます。



- ⑩各学校での子どもたちの実態を把握し、アレルギー等、食物に配慮を要する子どもたちに対応した給食を作ります。

除去食や代替食品を使った給食を作ります。

- ⑪春・夏・冬休み中の学童保育の食事を作ります。

児童へ栄養のバランスのとれた食事を提供します。



## (2) 家庭・地域での食文化の乱れの中で、食の専門家としての役割を果たします。

子どもの24時間を視野に入れて、お昼の給食のみでなく、家庭・地域での「豊かな食生活の確立」のために努力していきます。

### ⑧家庭への「給食だより」を通して、親と家庭への食教育に努めます。

子どもの様子（食事風景・子どもたちの嗜好状況・給食当番活動など）、食生活に関する情報（食べ物の栄養・耐食の大切さ・衛生の話など）、行事食・お楽しみ給食など（バイキング給食・セレクト給食・交流給食など）を知らせます。



### ⑨『レシピ集』などを発行して、家庭・地域に届けます。

健康に役立つ情報を盛り込んだ学校給食献立レシピ集、お弁当レシピ集、親子で作るおやつレシピ集、季節の行事料理・伝統料理レシピ集などを届けます。



### ⑩日本の食文化を守り伝えていくために、伝統食などの料理講習会を開きます。

学校の家庭科室や公民館やコミュニティーハウスを利用して開きます。



(3) 地域のひとり暮らしのお年寄りの暮らしや生きがいを援助していく役割を果たします。

⑥給食職員が学校給食調理場を活用して、地域のひとり暮らしのお年寄りに配食サービスをします。

地域のひとり暮らしのお年寄りの食生活を援助するため、弁当を作り、子どもが書いた手紙などをそえて届けます。子どもたちも手紙を書くことから、思いやりの心が育ったりする教育的効果もあります。



⑦地域のひとり暮らしのお年寄りのために、学校を開放して『昼食や夕食』を用意し、お年寄り同士の交流を深めます。また、お年寄り子どもたちとの交流の場も作ります。

ひとり暮らしのお年寄り同士と一緒に会食することでふれあいを深め、楽しく過ごすことができます。時には子どもたちと一緒に食べることで生きがいにもつながります。



⑧お年寄り等の休耕田や家庭の畑での野菜作り等を促進し、学校給食に利用します。

学校給食に必要な米、野菜、果物などの1年間の必要量をお知らせし、休耕田や家庭の畑で作ってもらいます。そのために地域で自主的な組織（市の農業者補助事業とする）を作ってもらいます。





## 四、岡山市の豊かな学校給食をめざす市民運動実行委員会への加入のよびかけ

### 市民自身の手で

### 学校給食の改善をめざしましょう

7月8日、学校給食の充実をめざした市民運動のネットワークづくりをするために、「豊かな学校給食をめざす市民運動実行委員会」が結成されました。この実行委員会は、岡山市学校給食運営審議会の審申が出され、それが政策化されるまでの間を活動期間とし、岡山市の学校給食を豊かにするための市民運動を進めることを目的としています。

学校給食充実のための情報交換や取り組みをし、みんなの声や力で審議会の審申により豊かな学校給食を実現させるための協力を呼び込み、その実現をめざします。

### ぜひ、市民運動実行委員会にご加入下さい。

＊個人でも団体でも実行委員会に参加できます。それぞれで学校給食充実の取り組みを進めながら、情報交換をしたり、共同の取り組みも計画していきます。ニュースを読むだけでも結構です。ぜひ、ご参加下さい。

＊みなさんに、学校給食をめぐるニュースなどを送るための通信費として、分担金をお願いしています。個人の場合一口1,000円、団体は一口2,000円とし、それぞれの分の口数で納めて下さい。納入方法については、郵便定額小為替で下記へお送り下さい。

事務局 西川悠江（食べもの通信読者会）  
〒709-0636 岡山市市民215-1  
TEL・FAX 086（297）6060

## 四、岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入のよびかけ

岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入のよびかけ

7月8日、平倉地区の町民で集まった市民運動実行委員会（以下、実行委員会）で、「岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入のよびかけ」が協議されました。この協議委員会は、岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入のよびかけを目的として、岡山地区の学校給食を豊かにするための市民運動を進めることを目的として設置されました。

学校給食は、子どもたちの健康と成長のために重要な役割を果たしています。岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入を進めることで、子どもたちの健康と成長を促進し、地域に根ざした給食を実現しようとしています。

この協議委員会は、岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入を進めるための具体的な取り組みを協議し、実行委員会を通じて実施していく予定です。

### ① 岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入のよびかけ

岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入を進めるためには、まず岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入を進めるための具体的な取り組みを協議し、実行委員会を通じて実施していく必要があります。

岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入を進めるためには、まず岡山地区の豊かな自然環境を有効活用し、学校給食への導入を進めるための具体的な取り組みを協議し、実行委員会を通じて実施していく必要があります。

## 「子どもたちのための学校給食、地域に根ざした給食を実現しよう」

編集・発行

岡山市の豊かな学校給食をめざす市民運動実行委員会

事務局 西川徳江（食べもの通信読者会）

〒709-0696 岡山市谷原215-1

TEL・FAX 086（297）6060

発行 1999年10月